

ザ・クラシック笑 SHOW



3月4日、第3回クルーズコンサートが亀山法男・勝子夫妻を招き、「ザ・クラシック笑」というタイトルで開演されました。ややもすると難しいイメージのあるクラシックをウイットに富んだ二人の軽妙な即興交じりのトークによって、笑いあり、感動ありの楽しいコンサートでした。亀山夫妻は前日の3日に可児市に到着し、本番通りのリハーサルをおこないました。特に歌に合わせてスライドを投影するところでは何度も試行を繰り返し、キメの細かさを見せていました。リハーサル後、プロジェクトのメンバーとの交流会を行いました。出演者との交流会ということで最初はちょっと緊張しましたが、二人の気さくな人柄で、すぐ話は盛り上がってきました。当日、入場者は157名と昨年よりは若干少なかったですが、二人の軽妙なトークと歌に場内はたちまち盛り上がり、あっという間の2時間のコンサートでした。クラシックもこんなに楽しめるんだと、あらためて思い知らされた気がします。「子どもたちにクラシック音楽の楽しさを伝えたい」という目的で、全国各地でコンサートを開催し、そのなかで地元の子供が作った詩を紹介し、作曲をして発表しています。可児市でも広報等によって募集し、多数の応募作品の中から広見小学校2年生の前川いとほさんと広見小学校5年生の各務花奈絵さんの作品が選ばれ、作者の詩の朗読と作曲した歌が紹介されました。この試みはライフワークとなっているようです。「楽しくなければ音楽じゃない!!!」と言い切る二人の「心意気」に、観客は充分満足して帰られたことと思います。

さあ開場



開演前の会場

お二人にお聞きしました

このようなショウ（笑）を始められたきっかけは？

音楽家と作曲家のペアなので、自然とこうなりました。きっかけといえるのは、ご近所の方、お世話になった方に小さなサロンでの公演を招待したことででしょうか。

クラシックの親しみやすさとは何でしょうか？

クラシックは高尚過ぎると思っていられっしやる方が多いと思い、まず聴いてもらいたいと思いました。縁あって、渋谷のジャンジャンという老舗ライブで演奏できたことが大きかったと思います。

今後の活動は？

ママさんコーラスの方や地域の合唱団の方々と共演したいです。ピアノ一台からできます。

お客様へのスペシャル・メッセージ

私たちは、「子どもの詩による歌」をライフワークとしています。その歌は、ここでしか歌われず、作曲、編曲も一回きりです。記念すべきことなのです。そして来てくださるお客様の幸せを祈っています。

ザクラシック笑^{SHOW}



開演前の打ち合わせ



リハーサル中



お客さんからの一言

いつの間にか時間が過ぎた。そんな感じてした。クラシックコンサートだからと構えて出かけたのに・・・いつも見るコンサートとは異なり、全く型にはまらない、芝居を見るような音楽会とも言うのか、これってクラシックコンサート？と思わされるリズムカルな演奏と、生き生きした歌でした。構成が非常によくできており終演後ほのぼのとした気持ちになりました。このお二人の音楽は、幅広いジャンルでやさしい中身で、まさに題名の意味するザ・クラシックショウ（笑）でした。楽しい企画をありがとう！また参加したいと思います。



広見小2年生の前川いとほさんと5年生の各務花奈絵さんへのインタビュー



楽しかったですか。

はい。(二人)

緊張しませんでしたか。

はい少し緊張しました(いとほさん)

あがりました。(花奈絵さん)

自分の詩が歌われてどう思いましたか。

すごいと思いました。(いとほさん)

想像を超えていました。(花奈絵さん)



家族や先生は今回のことについて何かおっしゃっていましたか。

応援しているので頑張っってね。って言われました。(二人)

また、ステージにあがってみたいですか。

はい。(花奈絵さん)

いとほさん、花奈絵さん、ありがとうございました。



よろしくお願いたします



はじめまして、宜しくお願いたします。

衛 紀生

突然、お話をいただいていささか戸惑いました。大学もすぐには職を辞することは無理ですし、桑谷前館長が立派な仕事をなされたあとを汚すようなことがあってはならないと本当に迷いました。最後は桑谷さんの「衛さんにやってほしい理由はあるんだ」というお言葉に背中を押されました。そう言えば、私が東京の舞台芸術に幻滅を感じて、東京と緊張関係のあるカウンターパートとしての地域劇場を構想しはじめ、地域に出るようになってちょうど二十年目であることに気付きました。これも何かの縁なのだと思われ巡り合わせの不思議に心が動きました。縁といえば、可児市にはアーラの完成前に二度うかがっています。劇場計画のワークショップとアークルーズのセミナーでした。なのに建物を実際に拝見したのは、昨年の初夏の頃でした。今年アーラで上演される『おーい幾多郎』のプロデューサーとして営業に

来たときに初めて可児市文化創造センターに足を踏み入れたのでした。そのときは、『おーい幾多郎』が生まれた金沢市民芸術村のアドバイザーとして、また作品に惚れ込んだプロデューサーとして、「こんなにいい劇場でやりたい」と感じ入ったのですが、やはりどこかで理想的な地域劇場を構想していた立場からもアーラを見ていたのだと思います。日本中のみならず、欧米の地域劇場を多く見てきた眼にも、アーラの持っている潜在力に強いインパクトを受けました。この「潜在力」を引き出すマネジメントができれば、前館長の仕事にさらに拍車をかけることができると思いました。私の新館長としての仕事は、この「潜在力」を強く信じることから始まります。そして、世界に出した。就任するにあたって私は、多くの可児市民の皆様にとって、アーラを心の止まり木になる、ちょっとした時間に立ち寄れる、心から必要とされる劇場にしたいと念じてやみません。そして中部圏のリーディングシアターに、さらにはナショナルブランドとしての「可児市文化創造センター」へと、私の夢はやむことを知りません。皆さん、私は大きな夢に向かって歩を進めます。どうぞ宜しくお願いたします。「夢」は信じれば確かな手ざわりで現実にすることができると確信します。まずは、信じることから始まる、と思っています。



お疲れ様でした

戻る



フロンタッフ研修



1月14日(日) フロントスタッフ28名、財団3名がグランシップ(静岡県文化財団)にて研修視察を行いました。朝8時集合、大型バスにて快適にスタートしました。車内では籠橋局長の「5年振りの研修です。まじめに楽しく過ごしましょう。」と挨拶がありました。JR東静岡駅のすぐ近くにグランシップがありました。この日は富士山がよく見え、写真撮影にもってこいの日でした。47名が乗れる大型エレベーターで12階に上がり、打ち合わせの後、星乃先生と一緒に見学しました。当センターにはクロークがあり、またドアのストッパーにも工夫が見られ、alaにはない発見がありました。我々の質問に対しグランシップのサポーターの方が非常に分かりやすく説明していただきました。「文化の中に身を置くことの楽しさと緊張感を良い刺激にしている」とか「お客様の笑顔を見るのが楽しい」と心境を語って下さり参加したクルーズのメンバーは熱心に聞き入っていました。研修は予定どおり行われ「グランシップの良い所を取り入れていきたい。今後もこうした研修を企画していきたい」という思いを胸にバスを降りました。

バスを降りさっそく！！



熱心に聞いてますね



進め! (16) ほんだいし alaクルーズ



アーツボランティア フォーラム2007 7月1日！開催

総会のお知らせ
平成19年度通常総会
平成19年5月20日(日)
ワークショップルーム

編集後記

もう花見の季節!!この間正月だったのに・・・おっとこの号が出る頃にはもう終わってるかも・・・一年って早いですね。クルーズも総会の時期になったし。alaもオープンしてもうすぐ5年目だし、今年はやり残しが無いようにがんばるか!!さて、何をしようか?その前に、まず一休み



alaクルーズ事務局 TEL/FAX:0574-61-3414
http://www.kpac.or.jp/alacrews/
Mail: alacrews@kpac.or.jp